アメリカ合衆国の歴史教科書に表われている日本と日本人の取扱い

高木とり

一

近頃ユネスコ運動の一つとして教科書調査が日本でも行われているが、この方面の仕事が最も古くから行われているアメリカ合衆国での同国歴史教科書の調査研究の一部として日本と日本人を取扱ったものが三つある。その一つは一九二六年に発表された Pierce の研究である。[1] 当時のアメリカ歴史の教科書について次の様な批評をしている。

(1) ペリー来朝の効果を決して見逃さない。

(2) 日露条約についてもアメリカが恩人とされている。

(3) アメリカの移民法の批評がなく、又、一九二四年の法が規定されて日本に対しての差別的態度が明らかになってからの両国の関係というものにもあまりふれていない。[2]

次に Church が一九三九年に〝アメリカの中等学校程度での支那と日本の勉強〟という論文を出した。[3] Church はアメリカ歴史の教科書に出てくる少しばかりの極東との関係についての記事をあまりひどく批評するという事はアメリカ歴史の勉強の目的そのものの点から云っても意味がないが、極東に関する記述の簡単さというものは他の事に関係して出て来たみじかい表現にすぎず、一番長くて二、三の一般的な文章であると述べている。又結論として次の様に云って居る。

(1) 記述は政治的なものが多い。

(2) 第一次世界大戦以来の日本との関係についての題目が主である。

(3) 移民問題が特に注目されている。[4]

教科書の記述の性質については大体正確であり反極東的な態度のない事を Church は指示しているが、同時に移民問題については大体支那と日本から将来移民が来ない事が望まれる事を教科書が示して居るといっている。

日本と日本人を取扱った教科書調査の中、最も包括的なのは一九四六年に American Council of Education の出版した**アメリカ教科書のアジア諸国の取扱い**である。[5] この調査には二十二の小学、中学、高等学校用のアメリカ歴史の教科書が含まれている。これによるとペリー来朝の事をこのグループの教科書は何度も述べているが来朝以来の日米外交の取扱いは不十分である。しかし小学程度の教科書と比較して中、高等程度の教科書には日本開国以来の米国とアジア諸国との関係が少し多く記載されている。後者は前者にのっていない事実、例えば条約を結ぶ時と米国の領事館を日本の土に始めておく時直面した色々の困難を記している。と同時に二十二の教科

書の内たった一つだけが当時の日本国内の情況にふれているので、普通のアメリカ歴史の教科書をみては一体日本に文化というものがその時あったのかどうかはっきりしない位である。一九五〇年以後の日米関係は支那と米国の関係よりくわしく述べている。ほとんど全部の教科書がテオドル・ルーズヴェルトと日露戦争の話をのせている。移民問題と紳士協定にもよくふれている。ある教科書はルーズヴェルトと日本との間の〝秘密交渉〟を細かに記している。日本の第一次世界大戦参加と平和条約についての折衝もよく記録されているが、ウイルソンと日本代表の間のいざこざ等はあまりのっていない。ワシントン会議での種々の契約及び一九二四年の移民法は中等高等程度の教科書には記載されている。新しい教科書には日本との戦争について相当かかれているが、前からある章の終りに加えた程度である。第二戦争前の三四年間の日本関係をゆるがした利害関係や国是の衝突と経済的又政治的事情にはほんの少数の教科書がいくらかのスペースを費しているだけである。

日本人の取扱いは教科書によって種々雑多であるとこの調査では述べている。しかし一般的にいって、教科書は東洋人がアメリカへ来た始めには何をしたか等という事を重要視していない。ヨーロッパからの移民と比べて東洋からはほんの少数しか来なかった事を先づ認めると同時に教科書にはもっとアメリカに来た種々の移民について述べなければいけないと指摘している。東洋からの移民がアメリカに入国し始めた頃は太平洋沿岸で歓迎されたものであるという事を指示すべきで、移民全体に対しての米国での反対についてそれが経済的な理由を多分に持っていた事を軽視してはまちがっていると云っている。そして次の様な批評をこの調査はつけ加えている。東洋人に対しての遍見の根本をなしている問題を真剣につきとめようとしている教科書がほとんどない。又、ア

メリカの差別的な移民法のアジア諸国と米国との関係にもたらした結果を本気になって説明しようとしている教科書がない。

日本に関する記事の全体的な評価としては歴史的事実はまちがいなく記載されているがその事実の解釈、判断とか背景的見解においてのまちがいがあるとこの調査はのべ、アジヤ諸国についての記事が挿絵・図表・地図も入れて小学校程度の教科書の四パーセントと中高等程度の教科書の三パーセントをしめるにすぎないと指示している。[6]

二

さて、ここに比較的にくわしく紹介する筆者の研究は以上の三つと違って教科書の日本と日本人の取扱いの変遷を調査したものである。日清戦争の終った一八九六年からこの研究の施行された一九五〇年までの半世紀ばかりの期間に出版されたアメリカ歴史の教科書はどれだけ又、どの様に日本と日本人を取扱っているかというのが問題にされた。つまり、この研究の第一目的は取扱いの変遷をユネスコの教科書改善の理想、即ち〝国際関係の真実さ、国際理解と国際平和〟の観点から評価する事にあつた。[7]

研究材料としては五十余年間を通じてほとんど必需課目である高等学校用のアメリカ歴史の教科書を使用した昔から種々の著者があらゆる出版社を通じて教科書を出しているアメリカでは一九五二年以前の教科書の完全なリストを得るのが容易でない。そこで先づ *Publisher's Weekly* の中にある "The American Education

Catalogue" によって一八五五年から一九二六年までの教科書のリストを得た。このリストでは出版期日がはっきりしないので他の参考書類とてらし合せて期日をたしかめた。[8] 次に種々の図書館や出版会社の援助をうけつつそのリストに出て来る教科書をあつめ、高等学校程度のをより集めた。一九二六年以後に出版された教科書は完成したリストがが得られるため、それによって集める事が出来た。[9] こうして出来上ったこの研究の主要材料である八十七の高等学校程度アメリカ歴史の教科書は一八九五年から一九五〇年までに出版された単行本を皆含み、その中には junior high school が一九一〇年あたりに進出して senior high school と区別される前の high school で使用されていた教科書も入っている。[10]

研究方法としては先づ一八九五年から現在までの五十余年を歴史的に重要な出来事によって次の四期間に分けた。

一八九五年（日清戦争）―一九一三年

一九一四年（第一次世界大戦）―一九三〇年

一九三一年（満洲事変）―一九四四年

一九四五年（日本敗戦）―一九五〇年

この研究で特に取り上げた十の課題は研究された教科書に最もよく出てくるものである。しかしアメリカ合衆国のヨーロッパ的背景の中に出てくる日本についての記述は現在の日本と日本人に関係がほとんどないのでこの研究には含まれていない。その他は日本に特にふれているあらゆる記事も視覚材料もみな研究の材料として取り

上げている。ただ〝アジア〟とか〝東洋〟等という言葉にふくまれている日本はこの研究の範囲に入って居ない。

課題は次の如くである。

1、日本の開国（ペリー来朝以降）
2、東洋の新勢力としての日本（日清戦争以降）
3、日露戦争とその後
4、日本と第一次世界大戦
5、日本と国際会議
6、太平洋を越えて来た移民
7、満洲事変
8、一九三七年以降の日支紛争
9、日本と第二次世界大戦
10、占領下の日本

以上の課題につき、American Council of Education の *Textbook Improvement and International Understanding* に出ている〝教科書調査のモデル・プラン〟の中の適切な項目によってアメリカ歴史の教科書に出てくる日本と日本人の取扱いがどの位ユネスコの理想、〝国際的な真実さ、国際理解、と国際平和〟に近いものであるかを問題にした。選ばれた項目は次の如くである。

1、内容は正確であるか。
2、報告されている事実は包容的で十分であるか。
3、内容のバランスはとれているか。
4、内容の取扱いは客観的で公正であるか。
5、挿絵・口絵第は代表的で正確に事実をうつしたものであるか。[11]

即ちこの研究の仮説は一八九五年から一九五〇年にかけて出版された教科書の日本と日本人の取扱いに対しての変遷はユネスコで奨励している様な世界的観点から云って進歩しているというのであった。

教科書の内容を検討するにあたってはBorton, Elisseeff and Reischawer の *A Selected List f oBooks and Articles on Japan* と Reischaner の *The United States and Japan* の Appendix IV "Suggested Reading" に出てくる日本に関する書物に頼った。此等の書物は権威あるアメリカの東洋に関しての学者がかかれたばかりでなくその多くが日本の権威の書かれたものを資料としているしアメリカの教科書が大体この様なグループの書物をもとにして書いているといふ事実から選ばれたわけである。その内から各課題について五つの書物を選び、それをもととして内容の平均、正確さ、内容の表す態度などを検討した。[12]

研究の結果報告に入る前にもう一つ説明しておきたい事は註についてである。八十七の教科書を基礎とした研究としてそれに関係した註がひどく多い。そこで註としては教科書にかぎって、著者の名前、教科書出版の期日、と本文に引用した部分の頁だけ又は他の必要事項を指示し研究報告の最後に教科書一覧を各期間に分けてつ

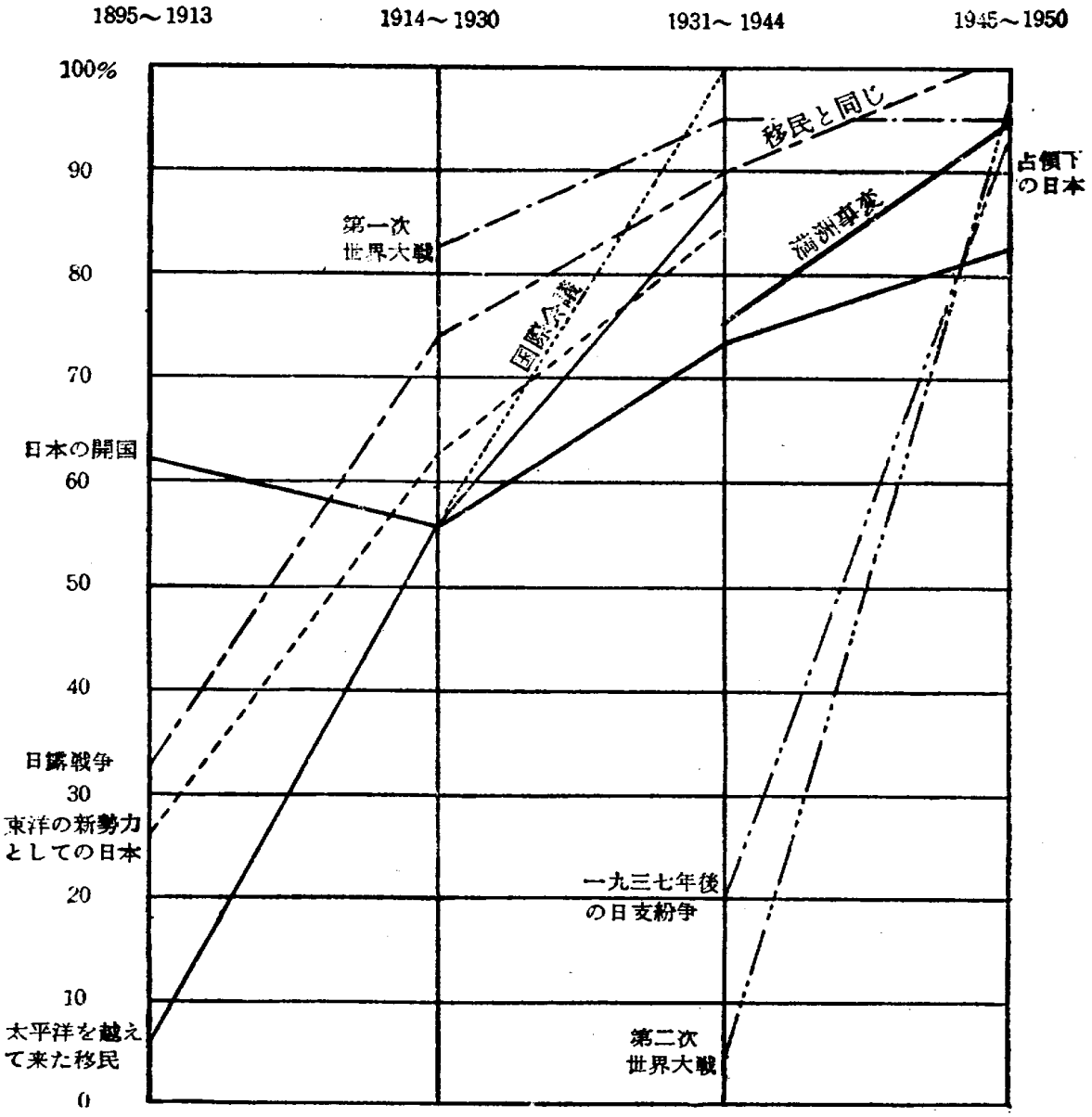
け加えた。

三

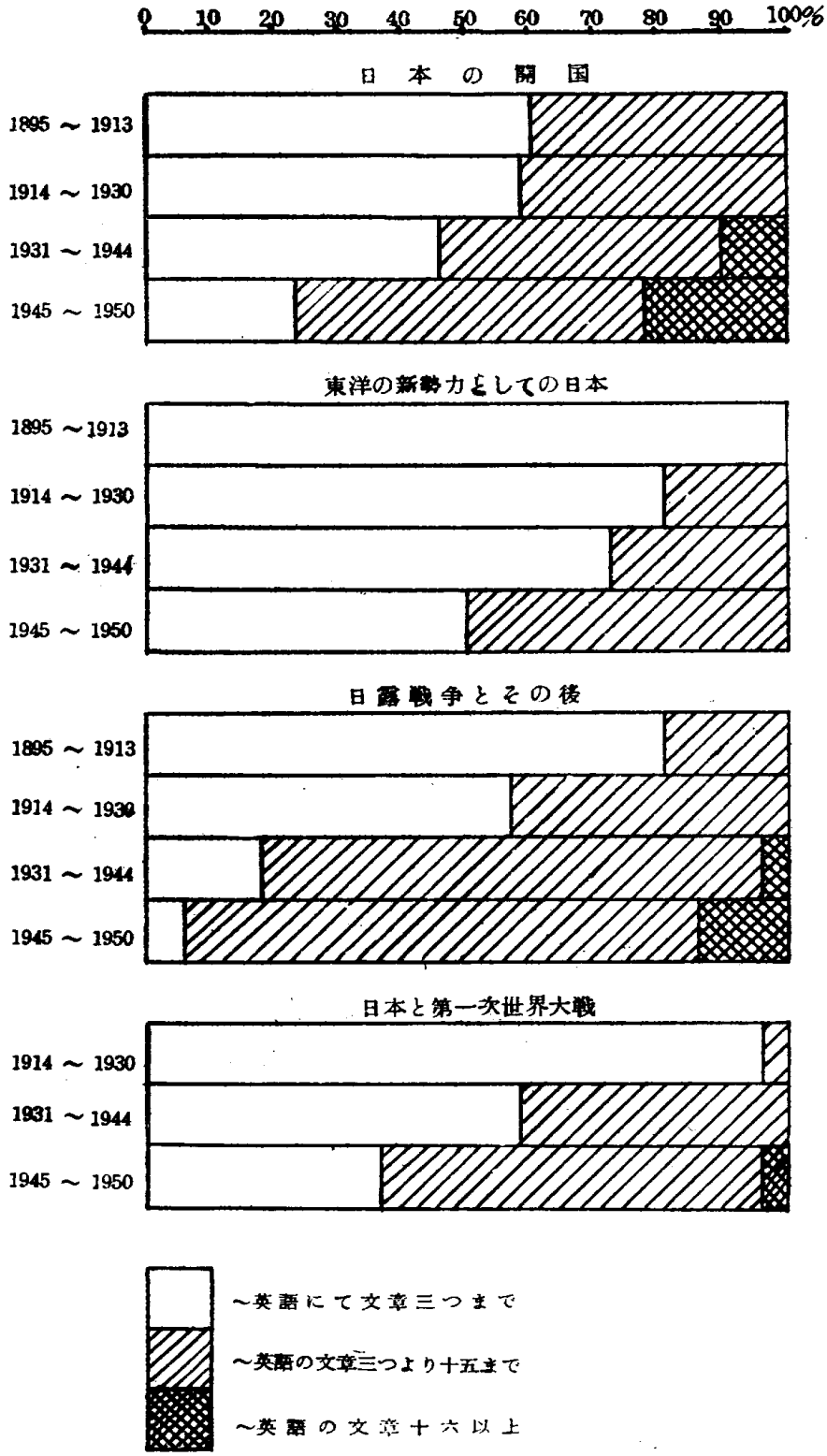
今、紹介して来た研究の結果報告として先づ図解Ⅰを参照されたい。

一八九五年から一九五〇年までの五十余年の間の一々の期間に出版された教科書がどれだけ各課題をとりあつかっているかという事を示すものである。即ち、日本の開国については第一期（一八九五年――一九一三年）には六〇パーセント以上の教科書がスペースをさいている。第二期（一九一四年――一九三〇年）には多少少くて五五パーセント位。第三期（一九三一年――一九四四年）には七〇パーセント以上。第四期（一九四五年――一九五〇年）には八〇パーセントをこえている。他の課題の中では〝東洋の新勢力としての日本〟と〝日露戦争とその後〟が四期を通じてより多い教科書に載せられ、移民についてはそれを取り扱う教科書のパーセントが急激にふえている。〝日本と第一次世界大戦〟は一九一四年以後の三期を代表する多くの教科書に出ているが国際会議についてはそれを取り扱う教科書が第二期と三期の間に急激にふえ一九三一年以後はどの教科書にも載っている。〝満州の危機〟は七六パーセントから九五パーセントにふえている。〝一九三七年以降の日支紛争〟と〝第二次世界大戦〟は一九三一年から一九四四年までの期間を代表する教科書の内少数のみがそれらの事変以後に出版されたものであるという事を頭に入れて見なければならないが、いずれの課題も大多数又は全部の教科書が第四期にそれを取り扱っているという事が分る。〝占領下の日本〟にふれる教科書のパーセントは少し減るがそれ

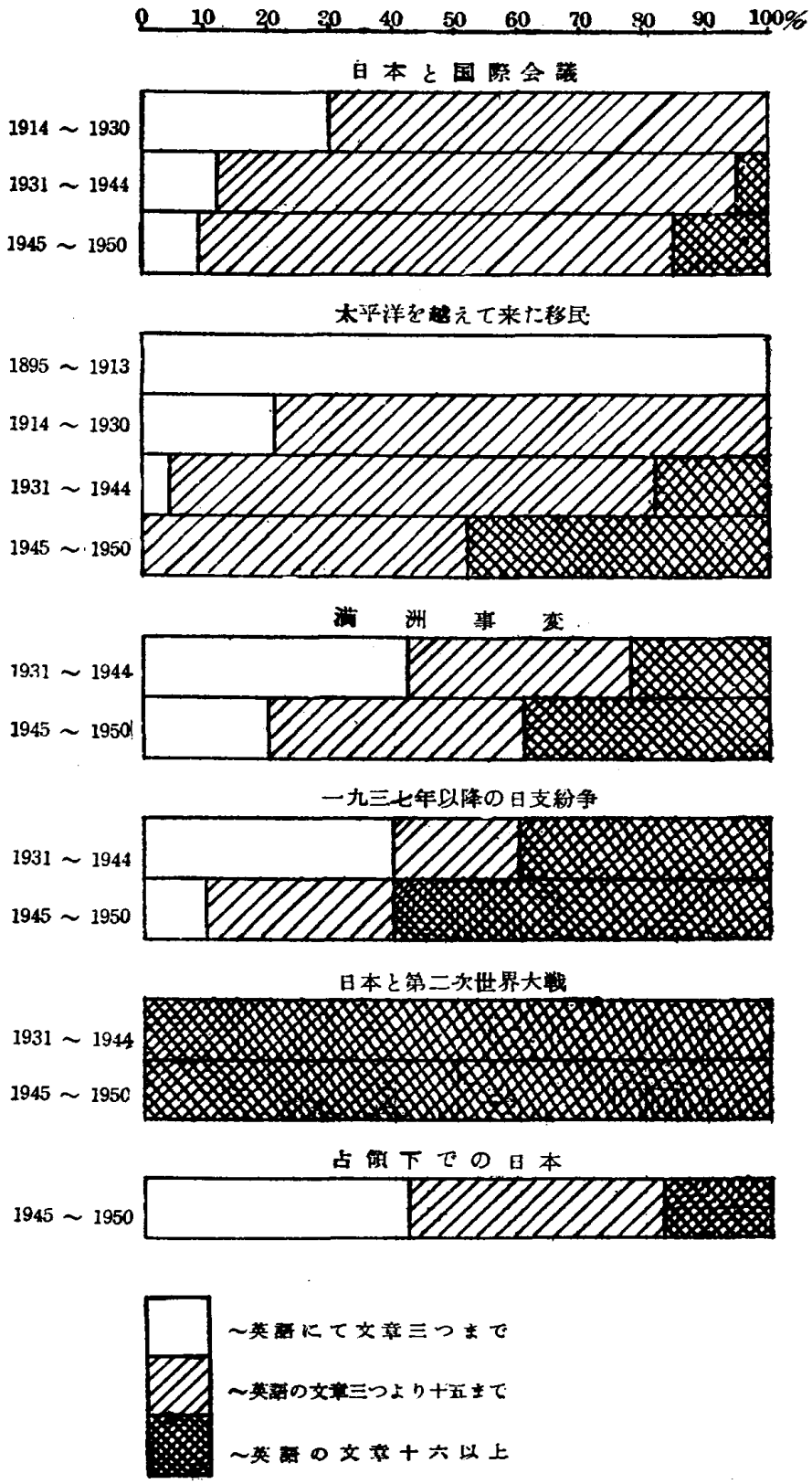
図解Ⅰ　種々の課題をとり扱っている
各期間の教科書のパーセンテージ



図解II　各課題にさかれた教科書のスペースの変遷



図解II（つ づ き）


0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100%
日本と国際会議
1914 ～ 1930
1931 ～ 1944
1945 ～ 1950
太平洋を越えて来た移民
1895 ～ 1913
1914 ～ 1930
1931 ～ 1944
1945 ～ 1950
満洲事変
1931 ～ 1944
1945 ～ 1950
一九三七年以降の日支紛争
1931 ～ 1944
1945 ～ 1950
日本と第二次世界大戦
1931 ～ 1944
1945 ～ 1950
占領下での日本
1945 ～ 1950
～英語にて文章三つまで
～英語の文章三つより十五まで
～英語の文章十六以上

でも多数の教科書がそれに関心をもっている。つまり、五十余年を通じてより多い教科書が多くの課題に触れ、そのふえ方は相当急激なものがある。即ち、高等程度のアメリカ歴史の教科書の日本と日本人に対しての関心は時と共にふえているという事が認められる。

次に日本と日本人を取扱っている教科書そのもののそれにあてがっているスペースについて述べたい。図解Ⅱは各課題にさかれた教科書中のスペースの変遷を表はすものである。この報告の第一章に紹介した他の同様な研究も指摘する様に、一般的にいって、そのスペースは少いのであるが、同時に時と共に殖えているのである。日本の開国については第一期（一八九五年――一九一三年）にそれに触れて居る教科書の中六〇パーセントばかりが非常に簡単に二、三文章でかたづけている。そして残りの四〇パーセントほどがそれより少しくわしく十五文章位まで費している。第二期（一九一四年――一九三〇年）には十五文章位まで使っている教科書のパーセントが少しふえる位の違いであるが第三期（一九三一年――一九四四年）と第四期（一九四五年――一九五〇年）の教科書になると、二、三文章でかたづけているものが次第に減り、十五文章までのが多くなり、十六以上使って比較的にくわしく取扱っている教科書が出て来ている。〃東洋の新勢力としての日本〃についてくわしく書いている教科書は四期を通じてないが、第一期にそれにふれている教科書の全部が二、三文章でかたづけているのが次第にふえ、第四期には五十パーセント以上が十五文章位までをこの課題にあてがっている。〃日露戦争とその後〃、〃日本と第一次世界大戦〃と順次に図をみていくと五十余年中例外なく各課題について十五文章かそれ以上のスペースを費す教科書のパーセントがふえている。

又、このグループの図で目立つ事は〃太平洋を越えて来た移民〃については一九三一年以後それにふれている教科書の相当なパーセントが十六文章以上を費して居り、〃満州の危機〃とか〃一九三七年以降の日支紛争〃も同様で、〃日本と第二次世界大戦についてはそれを取り上げる全部の教科書がそれをくわしく説明しているのである。満州事変以後の戦争については十六文章以上といっても事実何頁かのスペースを費している教科書が多く特に第二次世界大戦はひどく細かく記されて居り、その中の小さな題目一つに何頁をも費している事もある。

四

この研究の量的な調査結果は以上の如くで質的な結果を次に報告する。先づ内容の平均という点からいって、ペリー来朝以前の日本の長い歴史が全然対照にされていないという事にきずく。近代日本を理解するために軽視出来ない古代からの日本の歴史や日本人の文化的背景やペリー来朝まで日本の国を閉鎖する結果となった十五、六世紀の西洋との交通は高等学校程度のアメリカ人学生には紹介していないのである。つまり日本についての記述は一八五四年の開国を始めとして第二次世界大戦まで世界の強国としての日本の外交上の発展を画いている。又次に一々紹介する課題をみるとその半分は戦争に関したもので他も殆どみな外交に関するものである。表Ⅰは各課題の範囲内に入る小さい題目を取り扱う教科書のパーセンテージを一期間毎に表わしたもので各課題の内容報告と共に参照されたい。

表Ⅰa "日本の開国" についての題目を取り扱っている教科書のパーセンテージ

題目	1895—1913	1914—1930	1931—1944	1945—1950
日本の鎖国政策と外国人排斥……	25	17	20	38
ペリー以前の開国のこころみ……		4	12	10
開国を望む理由……	6	12	36	24
ペリー遠征と1854年の条約…	63	54	68	80
ハリスと1858年の条約……	6	8	24	48
市民の不安と反外人主義……	6	4	8	24
日本の近代化……	25	29	28	52

表Ⅰb "東洋の新勢力としての日本" についての題目を取り扱っている教科書のパーセンテージ

題目	1895—1913	1914—1930	1931—1944	1945—1950
1894—1895の日清戦争……		13	28	48
門戸開放政策……	13	29	44	38
北清事変……	13	25	72	76
1902年の日英同盟…		8	24	19
太平洋に於ける合衆国の進出…		13	36	33
第一次世界大戦前の日米通商……		8	24	19

表Ⅰc "日露戦争とその後" についての題目を取り扱っている教科書のパーセンテージ

題目	1895—1913	1914—1930	1931—1944	1945—1950
日露戦争	31	71	84	100
日本の朝鮮への進出		8	24	33
日本の満州への進出		12	4	10
戦後の日米交渉		21	44	52

日本の開国（表Ia）次の七つの題目がとりあげられている。

日本の鎖国政策と外国人排斥
ペリー以前の開国のこころみ
開国を望む理由
ペリーの遠征と一八五四年の条約
ハリスと一八五八年の条約
日本市民の不安と反外人主義
日本の近代化

大体においてどの題目についても五十余年中より多いパーセンテージの教科書がそれを取り扱っている。但し日米外交歴史の特に重要な出来事であるペリーの遠征と一八五四年の日米条約については一八九五年から一九五〇年までを通じて教科書が一番注目をはらっている。又、ハリスと一八五八年の条約や日本の近代化については少しながら取り扱う教科書のパーセンテージがふえている。近頃出版された教科書には二世紀に渡った日本の鎖国、開国以後の国内の不穏と反外人態度、難破船犠牲者に対しての日本側

表Id“日本と第一次世界大戦”についての題目を取り扱っている教科書のパーセンテージ

題目	1914—1930	1931—1944	1945—1950
第一次世界大戦	71	68	86
ヴェルサイユ講和会議	42	72	62
21カ条の要求		24	33
石井．ランシング協定	4	0	19
第一次世界大戦中及び戦後の日米通商		20	14

表Ie“日本と国際会議”についての題目を取り扱っている教科書のパーセンテージ

題目	1914—1930	1931—1944	1945—1950
ワシントン会議	58	100	100
ジュネーヴ会議	6	32	38
ケロッグブリーア条約		32	14
ロンドン会議(1930年)		68	76
軍備縮小会議と国際連盟		12	10
ロンドン会議(1935年)		20	62

の不親切な取り扱い、又ペリーの開国についての提議に対しての日本の態度も内容に含まれている。しかしこの七つの題目以外の開国に関しての重要な歴史的事実、即ち徳川幕府の社会的又政治的安定やペリー成功の助けになった幕府の衰微、ペリー来朝後の復雑な国内の情況、条約改正についてのとどまりない日本の努力やその時の建設的な日米関係には教科書が全然ふれていないのである。

表Ｉｆ“太平洋を越えて来た移民”についての題目を取り扱っている教科書のパーセンテージ

題目	1895—1913	1914—1930	1931—1944	1945—1950
日本人について		25	40	43
反日感情		25	44	43
教育委員会事件	6	25	52	57
紳士協定		29	84	86
1907年の移民条令の改正		4	8	
カリフォルニア州の反日法		37	56	38
日本人の排斥		25	72	76
第二次世界大戦中の待遇				38

表Ｉｇ“満州事変”についての題目を取り扱っている教科書のパーセンテージ

題目	1931—1944	1945—1950
満州事変その背景と理由	40	52
日本軍の侵略情況	28	48
満州国設立	40	43
日本軍侵略の国際的意義	24	24
合衆国の対日態度	52	76
国際連盟と日本	52	76
アジア的モンロー主義	16	43

表Ih "一九三七年以降の日支紛争"についての題目を取り扱っている教科書のパーセンテージ

題目	1931—1944	1945—1950
日支紛争の背景と理由	0	24
日本軍の侵略情況	12	86
日本関係	12	90
戦争の世界的影響	12	48
アジア的モンロー主義の発展	12	86

表Ii "第二次世界大戦"についての題目を取り扱っている教科書のパーセンテージ

題目	1931—1944	1945—1950
日本の国内事情		38
講和交渉	100	95
真珠湾攻撃		100
日本軍の進み		100
同盟国側の種々の会議と日本		52
日本の敗戦		100

表Ij "占領下の日本"についての題目を取り扱っている教科書のパーセンテージ

題目	1945 — 1950
進駐軍の行政	71
改正の種々	52
占領の結果	29

東洋の新勢力としての日本（表Ib）とりあげられている小さい題目は次の六つである。

一八九四年—一八九五年の日清戦争

門戸開放政策（機会均等主義）

北清事変

一九〇二年の日英同盟

合衆国の太平洋進出

第一次世界大戦前の日米通商

この中日本の北清事変参加にはわりと多くの教科書がふれていて記述のパーセンテージが五十余年中ふえてきている。又、日清戦争について記している教科書のパーセンテージは一九四五年以後の教科書に急にふえ、これらの教科書は下関条約での日本の修得を度々指示している。米国の太平洋進出についての日米関係の緊張も比較的に重要視されているが、盛んになって来た日米通商はあまり注目されず、ひきつづく日米の近代化については少しもそれにふれている教科書がない。

日露戦争とその後（表Ic）

この課題のもとに(1)日露戦争、(2)日本の朝鮮への進出、(3)日本の満州への進出、と(4)戦後の日米交渉という題目があげられる。日露戦争そのもの、殊にテオドル・ルーズヴェルトの日本に対しての態度やその終戦への貢献、は五十余年を通じて一番ひんぱんに記述されている。一九三十年以後の教科書にはこの戦争の起った理由、殊に日本国内の事情や条約に対しての日本の不満が紹介されている。戦後の日本の満洲や朝鮮進出とかルーズヴェルトがどうにかやわらげた日米関係の悪化は少しであるが段々多く注目ひている。

日本と第一次世界大戦（表Id）題目は次の五つである。

第一次世界大戦

ヴェルサイユの講和会議
二十一ケ条の要求
石井、ランシング協定
第一次世界大戦及び戦後の日米通商

始めの三つの題目については第二期以後の教科書が段々頻ぱんにかいているが二十一ケ条の要求は一九三〇年以後の教科書が急に注目している。と同時に日本の軍需品や船艦による連合軍側への貢献や大戦中に日本が経済的に豊かになった事実等はどの教科書もふれていない。

日本と国際会議（表Ie）戦後の日本が代表を送った次の六つの会議かそこでまとまった協約がこの課題の題目として表われている。

ワシントン会議
ジュネーヴ会議
ケロッグ・ブリーア条約
ロンドン会議（一九三〇年）
軍備縮小会議と国際連盟
ロンドン会議（一九三五年）

日本のワシントン会議と一九三〇年のロンドン会議参加は一九三一年以後に出版された教科書の多くに注目され

ている。と同時に一九四五年後に出版された教科書はケロッグ・ブリーア条約にあまりふれずその代りに日本が脱退した一九三五年のロンドン会議にっともふれている。つまり、日本の国際共力は五十余年間を通じて紹介されているが、一九三一年以後に出版された教科書はその後の日本の国際的にのぞましくない行動に重きをおいている。又、日本の国際共力を高からしめた開国以来最も強い戦後の日本の自由、民主主義的傾向はちっとも注目されていない。

太平洋を越えて来た移民（表If）この課題について教科書がよくふれている事は種々の反日態度とか反日法で、日本人移民の紹介ではない。教科書に表われた題目は次の様である。

日本人について

反日感情

教育委員会事件

紳士協定

一九〇七年の移民条令の改正

カリフォルニヤ州の反日法

日本人の排斥

第二次世界大戦中の待遇

そして教育委員会事件と種々の日本人入国を制限する待遇、殊に一九二四年の移民法についてもっともひんぱん

に記述され、その待遇のもたらした日米関係の悪化は五十余年中段々に多く注目されている。

しかし日本人移民を紹介する記事のパーセンテージも少しづゝながらふえていて、第二次世界大戦中の米国の日本人取りあつかいについての記事は特に公平でわりとくわしいものである。これについては教科書内容の表す態度の批判として後で記すが、取り扱われている日本人についての記事が米国西岸に来た人々のみをあつかって十九世紀の終りから相当に来た日本人留学生等にちっともふれていない事を指示しておく。

満州の危機（表1g）この課題に関連して次の七つの項ががとり扱われている。

満州の危機、その背景と理由

日本軍の侵略情況

満州国の設立

日本軍侵略の国際的意義

合衆国の対日態度

国際連盟と日本

アジア的モンロー主義

ほとんどどの題目についても最近の教科書の方がひんぱんに取りあつかっているが、この題目を取りあげている第三期と第四期を代表する教科書のグループは両方とも合衆国の対日態度と当時の日本と国際連盟の関係を重要視している。危機の背景や理由と満州国の設立にも相当に注意を払っている。日本軍の侵略情況やアジア的モ

ンロー主義は第四期の教科書が急に注意を払っている。

一九三七年以降の日支紛争（表1h）題目は次の通りである。

日支紛争の背景と理由

日本軍の侵略情況

日米関係

戦争の世界影響

アジア的モンロー主義の発展

重要視されているのは日米関係、侵略情況とアジア的モンロー主義の発展である。日本の占領下の支那や国際連盟のこの戦争に対してとった態度等は記述されていない。

第二次世界大戦（表1i）取扱われている題目は大体に次の様である。

日本の国内事情

講和交渉

真珠湾攻撃

日本軍の進み

同盟国側の種々の会議と日本

日本の敗戦

日本軍の進みが特に重要視されていてその段階が次々と述べられている。次にリストしてあるその段階を一々何頁をも費してくわしく説明しているのが教科書の大体の情況である。

香港陥落での日本の攻撃

英国とオランダの植民地への日本の侵略

日本のフイリップン征服

太平洋の交戦からミッドウェーの戦争

Doolittle 侵略

カダルカナル戦役

一九四三年――一九四四年の太平洋諸島での交戦

同盟国側のフイリッピン奪還

支那、ビルマ、インド戦線

硫黄島、沖縄戦役と日本への爆弾襲撃

同時に真珠湾攻撃や日本の敗戦、又真珠湾攻撃前の講和交渉もくわしくかかれている。

又、第二次大戦中の日本の国内事情を教科書に相当紹介している。又兵としての日本人や、日本の英国とオランダの植民地侵略の経済的意義は戦争の進行の記述中にしばしば含めてある。敗戦についての日本人の態度や経験も相当に注意を払われている。しかし講和交渉の初期にある部分の日本人が平和を保とうと懸命に努力した事

実等は記録されていない。

占領下の日本（Ij表）主な題目は(1)進駐軍の行政、(2)改正の種々、(3)占領の結果である。はじめの二つに重きをおいている。行政を語るに当ってはマッカーサー将軍にしばしばふれている。改正については天皇制と憲法の事が一番多くかかれている。行政の経済的な方面はあまり注意されていなく、又日本の当時の情況を紹介し進駐軍行政の根底的チャレンヂをなしたともいうべき日本での民主主義の成長をはばむもの等についてはちっともも書いていない。

五

教科書に出てくる日本や日本人についての内容は第二章でも説明した様に権威ある書物と照らし合せたのであるが、五十余年を通じてそのまちがいはあまりない。

表IIがまちがいの数をみせているが、移民についてのが少いながら時と共にふえている他、ところどころに小さな歴史的事実のまちがいが見出せる位のものである。しかし課題毎に以下それを取り上げて見る。

〃日本の開国〃についてのまちがい。第一期（一八九五年―一九一三年）には日本とオランダの関係が鎖国中ずっとつづかなかったといっている教科書が二、三ある。[13] ある教科書は十六、七世紀の西洋諸国との関係を無視して、ペリーは西洋諸国の船が全然きていない日本の港を訪れたと云っており、[14] 将軍よりも天皇がペリーの開国に関しての提議を承諾したのだとかいている教科書もある。[15] 又一八五四年の日米条約についてそれそのものが米国

以外の外国とも通用したと書いている教科書が一つある。[16]

日米外交史の権威である Payson J. Treat はナポレオン戦争の時にオランダにたのまれて合衆国の船艦が長崎とバタビヤの間を往復した外ペリー来朝以前に米国の船艦が日本を訪れて通商した記録がないと云っているが、[17] 第二期（一九一四年―一九三〇年）の教科書でペリー以前にも日本が米国と相当な通商をやっていた様にかいているのがある。[18] 鎖国中オランダ人も全然排斥されたとか、ペリーがいくつもの日本の港に現われたと書いている教科書もある。[19] 又 Treat はペリーが初めに日本を訪れてから一度かえって行った理由の一つとして日本への種々のみやげ物が届いていなかったという事をあげているが、[20] 同期間の教科書で最初の訪問の時にみやげものをもって来たと称しているのがある。[21] Chitoshi Yanaga の *Japan Since Perry* はペリーは十二船艦もの艦隊で日本を訪れる計画をしていたが、事実船艦四隻のみを指揮して来た事を明らかにしている。[22] しかしある教科書は十一隻もの艦隊で来たと記している。[23] 又日米間の一八五四年の条約と一八五八年のと

表II　日本と日本人についての教科書内容に表われている間違いの数

課題	1895—1913	1914—1930	1931—1944	1945—1950
日本の開口	6	6		4
東洋の新勢力としての日本		1		
日露戦争とその後		1	2	3
日本と第一次世界大戦			1	2
日本と国際会議			1	1
太平洋を越えて来た移民		3	5	12
満州事変			1	4
1937年後の日支紛争				
日本と第二次世界大戦				6
占領下の日本				

をとりちがえている本が三つほどある。[24]

表Ⅱがしめす様にこの課題については第三期を代表する教科書の記述は全然正確である。第四期（一九四五年―一九五〇年）には一八五八年の条約について一八五七年に結ばれたとしている教科書がある。[25] 又開国後の反外人態度に関して日本はもう強国になったと思って外人を排斥したと簡単に片づけているのがあるが、[27] 事実は Treat が説明する様に幕府の対外政策に反対した大名が天皇をかかげて幕府に反対したので外交がひどく内国の政治とからまって来たのである。[26] 又 joint expedition の後では一八五八年の各国との条約が天皇に認められただけであるが、ある教科書は全然新しい条約がその時に結ばれたと書いている。[28]

〃東洋の新勢力としての日本〃についてのまちがい。 この課題については一九二五年に出版された教科書が一所でまちがっているだけである。日本は朝鮮の事で日清戦争を戦ったが、この教科書は満州が第一問題でこの戦争が起ったとしている。[29]

〃日露戦争とその後〃についてのまちがい。 五十余年を通じて三つの教科書は[30]明治天皇が自ら講和の助けをルーズヴェルト大統領にたのまれたとかいている。[31] 又、一九五〇年に出版された教科書はロシアと日本と両方がはじめに講和を申し出たとしている。[32] これについて東洋史の権威である Paul Hibbert Clyde は次の事実を明らかにしている。一九〇五年の五月三十一日に日本が先づ申し出た。次にルーズヴェルトがツアーに連絡してロシヤの意向をさぐった処、六月六日に講和を希望する旨返事が来た。そこで二日後、米国政府が公式に両国に招待を出し講和を助ける事を提案した。[33] Clyde はポーツマス条約で賠償金の代りに樺太半島の南の半分を日本が

もらった事を記述しているが、[34] 一九四九年に出版された教科書は両方を日本がもらったとしている。[35]

〃日本と第一次世界大戦〃に関してのまちがい。 一九三五年と一九四九年に出版されたある教科書は日本が極東のドイツの占領地をもらえるという約束のもとに連合軍に参加したといっているが、[36] Clyde も云う通り日本は一九一四年の八月に戦争に参加し、一九一七年までドイツの占領地についての約束をされなかった。[37] 又一九四七年に出た教科書はシベリヤ遠征について日本は他国を待たずにシベリヤに行きその東の方を占領しようという計画をもっていたが他国がシベリヤを日本のその計画から救うために軍隊を送ったと書いている。[38] これについて Clyde はウラジオストックで日本人二人が殺されたので一九一八年の四月に日本はそこの日本人を守るため軍隊を送ったが連合軍がシベリヤに軍隊を送るという決定をした一九一八年の夏まで、又他国が軍隊を送るまで、シベリヤ遠征の為には軍隊を送らなかったと云っている。勿論日本は遠征が終ってからも一九二二年の十月まで軍隊をひきもどさなかったという事実があるが、遠征の根本的目的はシベリヤを日本から守る事ではなくドイツ軍を敵とした連合軍が東の方の戦線を設立する事であった。[39]

〃日本と国際会議〃に関してのまちがい。 この課題についてはほとんどまちがいがないが、一九三五年と一九四九年に出版された書物に日英同盟の代り九カ国条約が結ばれたと書いてある。[40] 勿論事実は四カ国条約である。

〃太平洋を越えて来た移民〃についてのまちがい。 この課題についてのまちがいの数は五十余年中少しふえている。第一期（一八九五年―一九一三年）の教科書には一つもまちがいがないが表Ⅱも示す様に第二期には三つ、第三期には五つ、そして第四期には十二ものまちがいが見出される。

第二期（一九一四年―一九三〇年）を代表する教科書の中二つが紳士協定と教育委員会事件に関連した他の協定とを取り違えている。一つの教科書は一九〇七年の移民法の修正即ち移民が他国を通じて合衆国に入ってくる事を禁じる法、について書きながら日本の天皇が国民の合衆国へ直接に行く事を禁じて居られる話をしている。[41] もう一つの教科書は紳士協定の説明としてそれが日本の労働者の合衆国入国を禁じたと同時に十六歳以下の日本の子供達がサンフランシスコの学校へ行かれる様にしたと云っている。[42]

第三期（一九三一年―一九四四年）には五つのまちがいが見られる。第二期の教科書と同じ様に一九〇七年の移民法の修正と紳士協定とを取り違えたり、紳士協定の内容をまちがえたりしている教科書がある。[43] 又ある教科書は日米間の種々の協定をまぜこぜにして "The exclusion act of 1907" が一九一一年の紳士協定となり日本自身が国民の合衆国入国を制限したと書いている。[44]

第四期（一九四五年―一九五〇年）に出版された一つの教科書は一九四〇年に米国にいた日本人の数を三三四・〇〇〇としているが、[45] 人口調査によると一二六・九四七であった。[46] この期間に出てくる十二のまちがいの五つが紳士協定が一九〇八年でなく一九〇七年に結ばれたとまちがって称し、[47] 六つは他の期間に出版された教科書と同じ様にその内容についてまちがえている。[48]

"満州事変" についてのまちがい。 第三期と第四期に出版されているある教科書に満州事変の頃合衆国がその艦隊全部を太平洋にあつめて日本をおびやかしたとかいてあるが、[49] これについて当時の国務長官であったスチムソンはその著書に太平洋で行われた演習は満州事変の起るずっと前から計画されていたもので日本をおびやかす

目的で行われたものではなかったと説明している。[50] 又第四期を代表する二、三の教科書には米国の満州事変に対する態度が国際連盟の態度より強かった風にかかれているが[51] Clyde は合衆国が国際連盟より強い態度に出なかった事を次の様に明らかにしている。

It was the hope of the American government that peaceful elements in the Japanese government would be encouraged to reassert their influence over the army and its supporters. During 1931, Secretary Stimson did not propose to the powers any anti-Japanese action which Britain or France rejected. Indeed, it was the League powers that sounded out cautiously the American Secretary of State as to whether the United States would support a policy of sanctions. Secretary Stimson gave no encouragement to these inquiries; in fact, his expositions of policy and his instructions to American representatives at Geneva, London and Paris were hostile to sanctions of any kind involving the United States, other than the sanctions of adverse public opinion and official non-recognition of conquests or settlements achieved by other than peaceful means.[52]

〝日本と第二次世界大戦〟についてのまちがい。 細かく教科書に記されている課題であるが、表Ⅱが示す様に今此所に説明する六つしか不正確な箇所が見当らない。日本の軍隊が泰国に入って行ったのは一九四〇年の七月でその時に野村大使が米国に注意されたが同年の十一月までくるす氏は野村大使に加わってハル長官と講和交渉

をしなかった。[53] しかし一つの教科書は泰国に侵入せぬ様にと注意された時に日本の代表二人はいそいでハル長官と交渉に行ったとかいている。[54] 東条首相が陸軍大将でなく海軍大将だとしている本が二つある。[55] 山下大将の名を"Yamashito"とかいているのもある。[56] 又もう一つの教科書は敗戦直後の天皇のラジオ放送を紹介しておきながらそれが一九四五年九月二日に行われたと云っている。[57] 表Ⅱも示す様に占領下の日本については歴史的事実のまちがいがない。

六

教科書は五十年間を通じて日本と日本人を客観的に公平に取り扱っているというのが全般的の情況である。第二次世界大戦についても記述が至極客観的で悪感情を表はしていない。表Ⅲに各課題についての非客観的な箇所の数が五十年間を通じてしるしてあるが全体として少数である。

第一期（一八九五年―一九一三年）には非客観的な箇処が一つもないと同時に第二期から四期にかけてその数がふえている課題は一つもない。日本人についてのみ主観的で公平にかかれてない箇所が最後の三期間を通じてあるがそれが三期間を通じてふえていないばかりでなく第四期には一つの教科書のみが三つのまちがいをしている。又第四期に出てくる他の課題についての異義ある点もその同じ教科書に出てくるのである。つまり五十余年に出版された教科書の表す態度は全般的にいって客観的であるが、参考のため次に異議ある処を課題毎に取り出してみる。

〃日本の開国〃についての記述の表わす態度。 第四期の教科書が次の様に日本の当時の官史の態度についてかいている。

When some of the high Japanese officials hesitated to approve this new agreement, the Japanese prime minister convinced them with an interesting argument. As he put it; "In establishing relations with foreign countries, the object should always be kept in view of laying a foundation for securing hegemony (political power) over all other nations." In 1858 nobody outside of Japan could see anything but a joke in such a statement.[58]

表III　教科書内容に表われている非客観的箇処の数

課題	1895—1913	1914—1930	1931—1944	1945—1950
日本の開口				1
東洋の新勢力としての日本			2	2
日露戦争とその後				2
第一次世界大戦				1
日本と国際会議				3
太平洋を越えて来た移民		4	4	2
満州事変				1
1937年以降の日支紛争			1	
日本と第二次世界大戦				1
占領下の日本				

この教科書にはこの当時の日本や日本人の態度をこの他に記していないので以上引用された箇所が日本の帝国主義を強調する結果となって居る。

〃東洋における新勢力としての日本〃の表わす態度。 下関条約が結ばれて後、日本はフランス、ドイツとロシヤにおされて関東州を支那に返したところ、ロシヤが同じ関東州を二、三年の内に占領した歴史的事実があるが、

一九三一年後に出版されたある教科書は三ヶ国干渉について "Only the intervention of Western nations prevented Japan from imposing her terms upon China" と一方的な事をいっている。[59] 又門戸開放政策について、一九四一年に出版された教科書がそれは日本が強くなるまで極東での難事を延期したと云い、[60] 一九四九年に出た本は日本がこれに関する国務長官ヘーイの提議に同意した理由として日本は当時支那が分割されてしまう事を自国の不利と考えたからであるといっている。[61] つまり第三期以後の教科書が二つ、それ以前に出版された教科書にならわず、日本を帝国主義国として紹介している。

"日露戦争とその後" についての態度。 ある教科書は日露戦争の始めに日本は戦争宣言なしにロシヤを攻撃しはじめ、又その攻撃のはじまった時には日本代表がロシヤで平和交渉をしていた真只中であったと第二次世界大戦のはじめを思い出させている様である。[62]

Clyde もその著書に書いている様に一九〇三年の七月に日露交渉のはじまった時、日本の内閣はその交渉が旨く行かなければ武力に訴えるより仕方ないと覚悟していた。同十二月二十八日に政府は非常事態のため省令を出した。次いで一九〇四年の二月八日に日本海軍は旅順を攻撃し同十日に戦争を布告した。[63] つまり、歴史的事実はこの教科書の云う通りなのであるが、同じ教科書が日本歴史の侵略的方面を強調している点から見ても真珠湾の攻撃をアメリカ人に思い出させて日本が昔から如何に侵略的であるかを証明しようとしている様に見られる。同じ教科書は日露戦争当時の日米関係を説明するのに平和的な方面については何もかかずに "Japan's long range plans for ruling the world" という事のみとりあげている。[64] そして風説でのみきかれた事、即

ち一九〇七年にロシヤで日本の外交官が日本は米国の西岸を占領したいのだと云ったという事、を使って日本の侵略的な方面を強調している。[65]

日本と第一次世界大戦についての態度。 一つの教科書は日本の東洋における志望を強調し、第一次世界大戦に参加したヨーロッパの諸国は昔から日本の野心的志望の妨げとなっていたものであると称し[66]又支那の革命とヨーロッパ戦争は日本の長く待っていた東洋での志望を充すによい機会をあたえたとかいて帝国主義の日本に重きをおいてかいている。

日本と国際会議についての態度。 世界大戦後の日本の内情、つまり民主主義で平和主義的な日本人が政府の上にたち軍国主義的な傾向をチェックしていた事を紹介せずに下記の様に記しているので日本を軍国主義的な国とのみ紹介する結果となる。

During the 1920's the Japanese did not care to fight for their claims. Time was of no particular value to them, and they could afford to wait. But they were bitterly resentful over our opposition to their land grabbing programs.[67]

同じ教科書は日英同盟の延期に対しての英国の反対を説明するにあたって "a clear understanding of the danger of Japanese conquest" のみがその理由であったと云って又日本の侵略的意向を強調しているのである。[68] 海軍軍備制限についての五ヶ国条約を日本が署名した事は後の日本の行動からいって誠に不正直な事だったとしている教科書があるがそれも一部の自由主義的な日本人が出来るだけ軍国主義的傾向をチェックしていた一

九二〇年から一九三〇年あたりまでにかけての日本国内の情況を無視してそう書かれているわけである。[69]

ケロッグ・ブリーア条約についても日本が一九二七年に Tanaka Memorial を書き翌年その条約に署名した事をかき日本の誠意の足りない事を指摘しているが、これも国内の複雑な状況を考慮に入れぬ意見である。[70]

〃太平洋を越えて来た移民〃についての態度。 公平でない態度が第二期（一九一四―一九三〇）以後の教科書に少しみられる。第二期にはアメリカにいる日本人について "An Unassimilable class in our population" と云っている教科書がある。[71] 又、ある教科書は民族が違うという点から差別的待遇を奨励し、もう一つの教科書は民族的及び経済的な事を理由としてほとんど同じ事を奨励している。[72] 又、法的な理由で又他国でも同じ様な態度をとっているという理由で差別的待遇を次の様な是認している教科書もある。

The United States is clearly within its rights both in barring Japanese immigrants and excluding the Japanese from citizenship; and any state has a legal right to prohibit aliens from owning land within its borders unless this legislation conflicts with some treaty provision. Our country is not alone in adopting the policy of protecting itself from the menace of Oriental immigration, since Canada, Australia, and other British dominions have passed even more astringent measures.[73]

第三期（一九三一―一九四四）にも以上と同じ様な偏見的な態度が四つみられる。[74]

第四期（一九四五―一九五〇）には二つの教科書しか上記の様な態度をみせていない。[75]

一つは一九二四年度の移民法が通る前に日本の大使がアメリカの国会でもし日本人が差別されれば "grave consequence" が起ると云った事について、その様な言葉を外交上使うという事はほとんど〃戦争する〃と云っているも同様でそのためアメリカの上院としても日本人を quota system の中に含む事が不可能になったのだと述べている。[76] しかしこれに関して日本外交歴史の権威である Treat は次の様にのべている。

The historian remembers that when, in June, 1863, the Shōgun's representative proposed to the foreign representatives that negotiations take place for a modification of the existing treaties, the American Minister replied, "A solemn treaty has been made by the government of Japan with the United States granting to its citizens the liberty to reside and trade at these ports. This right thus acquired will not be surrendered and cannot be withdrawn. Even to propose such a measure is an insult to my country, and equivalent to a declaration of war."[79]

そして以上のアメリカの役人の態度は一九二四年の日本大使のとった態度よりずっと強いものであると Treat は指摘している。

第二次世界大戦中の日本人の取り扱いについては教科書が特に公平な態度をとっている。いくつもの教科書が西岸にすんでいた日本人とその家族を relocation camps に行かせた事は民主主義国家としてのアメリカの歴史的大まちがいであったと認め次に引用してある様にその人達の当時の境遇に同情してかいている。

A group of Americans who suffered greatly from the war hysteria were our citizens of Japanese descent-young men and women of the second and third generation in America, brought up in American schools to believe in justice for all. When the army decided in the first winter of the war that all people with Japanese blood living near the Pacific Coast should be evacuated at once to camps on the interior, consternation reigned; but there was no thought of serious protest. Bundling together the few possessions they were allowed to take with them, thousands of self-respecting families—farmers, merchants, students, professional men—were herded into improvised shelters to await transportation to huge camps, as yet only partially built-long rows of desolate barracks in which whole families were crowded into single bare rooms, unfurnished except for cots.[79]

又、いくつかの教科書は relocation camps の外での日本人を父母にもつアメリカ市民の市民にふさわしい活動についてもかき、そういうアメリカ人があらゆる民族からなり "melting pot" であるアメリカをなすものであると説明している。

〃満州の危機〃、〃一九三七年以降の日支紛争〃、〃日本と第二次世界大戦〃についての態度。前記の如くこれらの課題については教科書が特別にくわしく記述しているのに関らず、異議ある箇所が非常に少い。満州事変については一つの教科書が Tanaka Memorial をくわしく説明してそれが日本の歴史の典型的な出来事であると

又一方的な意見を表わしている。[80] 〃一九三七年以降の日支紛争〃に関しては日本の国民が残らず軍人の思うように考えていた様にかき又アジアのモンロー主義に日本全体が大賛成であった様にかいている教科書がある。[81] 当時の日本が軍国主義で全体主義であったとは云え、少し一方的すぎる記述と思われる。第二次世界大戦については一つの教科書が所謂"yellow peril"を是認し帝国主義的日本の野心的志望を強調してかいているだけである。[82] 多くのアメリカ人を非常になやませた、又相当近頃起った大戦であるが、この例外の他はちっとも主観的な又は悪感情を表わす態度は見られず、率直に歴史的事実が記されている。

表Ⅲも示す様に、占領下の日本については別に異議ある箇所がない。

七

挿絵とか地図等視覚資料は第二次世界大戦についてのが最も多く、日本の開国についてのがそれより少いながら五十余年中段々にふえていて、国際会議についてのが一九三一年から一九四四年までの期間の教科書に割りに出ている他はあまりないのである。平和時における日本の状勢とか日本人を紹介する様な写真は残念ながらほとんどみられない。

〃日本の開国〃に関連して一九四四年までの教科書に出てくる挿絵の大部分がペリーの来朝についてである。[83] しかし比較的最近出た一つの教科書はペリー来朝直後にかかれた二つの版画を紹介している。[84] その版画の一つはアメリカ人の家族をえがき、もう一つはアメリカの商人とその妻をみせている。又アメリカの大統領が批准した

一八五八年の条約をアメリカ訪問中の日本の代表からうけとっている写真を見せている教科書が一つある。[85]

〃東洋における新勢力としての日本〃と関連してかなり沢山地図がのせてあるがそのほとんど全部がフィリッピン諸島等アメリカの太平洋における属領地を主にみせて日本の南の端を一寸入れているにすぎない。しかし最近出版された一つの教科書には"China and Japan"と題して門戸開放策、北清事変とか紳士協定等アメリカの関心をもっていた極東での出来事を図面に紹介している。[86]

〃日露戦争とその後〃については一九三〇年までに出版された教科書には何も視覚材料が出ていない。しかしその後の教科書にはポーツマス会議の時のルーズヴェルト大統領とロシヤと日本よりの代表をみせた写真がある。[87]

〃日本と第一次世界大戦〃については一九二五年に出版された教科書が大戦に参加した国々をみせた地図をのせ、[88]同年に出版された教科書もう一つが一九一四年度の合衆国の外交についての地図をのせて日本をそれに含んでいる。[89]

前記の通り〃日本と国際会議〃については一九三一年から一九四四年までの期間中に出版された教科書が一番多く視覚材料を含む。第二期（一九一四年―一九三〇年）には一つの教科書がワシントン会議での各国代表の席順をみせた図解をのせ、幣原大使や加藤海軍大将等の席をみせており、[90]もう一つの教科書が"The Pacific as Mapped out under the Four Power Treaty"という地図をのせて日本をみせているだけである。[91]第三期（一九三一年―一九四四年）の教科書にある視覚材料は次の通りである。(1)ワシントン会議出席の各国代表をみ

せた写真。[92] (2)5・3・3の五カ国会議の海軍軍備制限比率を表わした漫画で Uncle Sam, John Bull と "honorable Japan" をそれに当てはまる数字の上に乗せたもの。[93] (3)同じ比率を紹介した表。[94] (4)一九三〇年のロンドン会議での海軍軍備制限を表わした表。[95] (5)一九三一年度の合衆国、英国と日本の海軍力をみせた表。[96] 第四期には第三期に出て来た漫画を同じ教科書がその改訂版にのせており、[97] 今一つの教科書がワシントン会議出席の代表の写真をみせているだけである。[98]

移民については五十余年を通じてたった一つそれを紹介する写真があるだけである。それは一九三八年出版の教科書に出てくるもので、健康そうな日本人の百姓とその妻が沢山の野菜をもっている処をうつしたものである。[99]

〃満州の危機〃については第三期と第四期に出た教科書が日本軍が南支那の街に入ろうとしている処の写真をみせている。[100]

又〃支那での無宣言戦争〃に関しては一九四五年後に出版された四つの教科書が視覚材料を含んでいる。パネー事件についての写真、[101] 支那での日本軍の写真と[102] 一九三八年度に中国人が日本の侵略について国際連盟に請願してデモを行った時の写真がそれである。[103] 又日本の支那占領を表わした地図をのせている教科書が一つある。[104]

〃日本と世界第二次大戦〃に関した視覚材料は前記の如く一番多い。戦争前の講和交渉の日本側代表の写真が一つある。[105] 真珠湾の攻撃については十一もの教科書がそれについての写真をみせている。[106] 又ある教科書はルーズヴェルト大統領が国会で日本に対しての戦争を宣言している処の写真をみせ[107] もう一つの教科書は新聞配達の子が

真珠湾攻撃のニュースをくばっているところをみせている。[108] 最後に真珠湾攻撃が如何に米国市民を一致させたかを表わした画を紹介している教科書がある。[109] 大戦の経過については十三の教科書が色々の写真をみせていて、それには原子爆弾投下の写真が多く含まれている。[110] 又一つの教科書はポツダム会議の写真をみせてそこで日本の降服について論議したと説明している。[111] 日本の敗戦についてはパリーに於ける連合軍側の勝利を祝する処の写真がある一方[112] 日本人捕虜が日本の敗戦を報知するラジオをきいている処の写真もある。[113] 日本がアメリカの戦艦の上で降伏を正式に認めている処の写真は八つの教科書に出ている。[114] そしてこの大戦に関した地図は十五の教科書に出ている。[115]

八

結論として以上報告した八十七冊の高等学校程度のアメリカ歴史の教科書に出てくる日本と日本人の取り扱いは一八九五年から一九五〇年にかけて量的に又質的に相当な変化をみせていると云える。主な課題はどれもより多いパーセンテージの教科書にとり上げられており、又教科書中のスペースも五十年を通じて多くなっている。各課題の取り扱いが例外なく五十余年中ふえている。又、満州事変以後第二次世界大戦までの出来事は非常に細かくしるされ、日本からの移民についてはその量が五十年間に急激にふえている。

内容としてはペリー来朝以前の日本の歴史が全然紹介してない事は五十余年を通じて同じである。そして戦争も入れた日米の外交関係が日本と日本人についての記述のほとんどをしめている事も今も五十年前もあまり変り

がない。しかし内容の質的変化の特徴として（一）日本の内情について少しながら記述がふえている事、（二）日本とか日本人の観点についての記述が出てきている事、（三）日本人の取り扱いが公平になってきている事が掲げられる。同時に日本の国際協力の乏しさや戦争についての記事が増加し、そのわりに平和的な建設的な方面の日本の外交歴史の記述が少ししかふえていない。

又教科書内容は少さい歴史的事実のまちがいをのぞいては正確で客観的にかかれているといふのが大体の情況であり、移民については偏見的態度が五十余年中に消え失せ、第二次世界大戦中の米国土での日本人について特に公平にかかれている。挿画とか口絵は、本文にならって、第二次大戦のが一番量的に多い。しかし日本の開国についての視覚資料がふえている他は五十余年を通じてあまり変化がない。

つまり高校程度のアメリカ歴史の教科書に出てくる日本と日本人の取り扱いはユネスコの理想である〃国際関係の真実さ、国際理解と国際平和〃の点から見て、最近の戦争に重きがおかれすぎているとはいえ五十五年中大体に進歩し、特に近頃の教科書には日本や日本人についての認識を深めて国際理解、即ち平和、に積極的に貢献しようとする意図が見られる。

註

1. Bessie Louise Pierce, *Civic Attitudes in American School Textbooks.* Chicago: The University of Chicago Press, 1930.
2. *Ibid.*, pp. 82—83.
3. Alfred M. Church, *The Study of China and Japan in American Secondary Schools.* Unpublished

doctoral dissertation at Harvard University, 1939.

4. *Ibid.*, pp. 92—93.

5. *Treatment of Asia in American Textbooks.* Washington, D. C.: American Council on Education, 1946.

6. *Ibid.*, pp. 92-93.

7. I. James Quillen, *Textbook Improvement and International Understanding,* Washington: American Council of Education, 1948.

8. *The American Cataiogue; The Cumulative Book Index; The Library of Congress Catalogue; The United States Cataiogue, Supplement.*

9. Amabel Redman (compiler), *Classified Catalogue of Textbooks in the Social Studies for Elementary and Secondary Schools.* Philadelphia: McKinley Publishing Co., 1927.

   Wilbur F. Murra (compiler), *Bibliography of Textbooks in the Social Studies for Elementary and Secondary Schools.* Cambridge, Mass.: The National Council for the Social Studies, 1949.

   Alice W. Spieske, *Bibiiography of Textbooks in the Social Studies.* Washington, D. C.: The National Council for the Social Studies, 1949.

   Alice W. Spieske, "Bibliography of Textbooks in the Social Studies," *Social Education,* xiii (December, 1949) 382—383.

   Alice W. Spieske, *Bibliography of Textbooks in the Social Studies,* 1949—1950. (A folder at Teachers College fifth floor library.)

10. 教科書のリストはこの記事の後に表われる。

11. I. James Quillen, *op. cit.*, pp. 73—4.

12. ＝日本の開国＝ Paul Hibbert Clyde, *The Far East,* pp. 170—210. New York: Prentice-Hall, Inc.,

1948; Hosea Ballou Morse and Harley Farnsworth MacNair, *Far Eastern International Relations*, pp. 290—334 and 371—411. Boston: Houghton Mifflin Co., 1931; J.H.Gubbins, *The Making of Modern Japan*, pp.42—116. London: Seeley, Service and Co., Limited, 1922; G.Nye Steiger, *A History of the Far East*, pp.409—419, 1—136. Boston: Ginn and Co., 1944; Payson J.Treat, *Japan and the United States*, pp.1—136. California: Stanford University Press, 1928.

=東洋の新勢力としての日本= Paul Hibbert Clyde, *op.cit.*, pp.239—310; J.H.Gubbins, *op.cit.*, pp.214—253; Hosea Ballou Morse and Harley Faruworth MacNair, *op.cit.*, pp.382—411 and 439—494, G. Nye Steiger, *op.cit.*, pp.617—629 and 659—674; Payson J.Treat, *op.cit.*, pp.155—183.

=日露戦争とその後= Paul Hibbert Clyde, *op.cit.*, pp.306—310 and 329—357; J. H. Gubbins, *op.cit.*, pp. 254—273; Hosea Ballou Morse and Harley F.MacNair, *op.cit.*, pp.500—540; G.Nye Steiger, *op.cit.*, pp.716—740; Payson J.Treat, *op. cit.*, pp.183—211.

=日本と第一次大戦= Paul Hibbert Clyde, *op.cit.*, pp. 373—427; J.H.Gubbins, *op.cit.*, pp.274—282; Hosea Ballou Morse and Harley Farusworth MacNair, *op. cit.*, pp.568—612; Payson J.Treat, *op.cit.*, pp. 212—257; G.Ney Steiger, *op.cit.*, pp.745—772.

=日本と国際会議= Paul Hibbert Clyde, *op.cit.*, p p.441—451 and 559—571; Hosea Ballou Morse and Harley Farusworth MacNair, *op.cit.*, pp.689—707; G.Nye Steiger, *op.cit.*, pp.797—904; Payson J.Treat, *op.cit.*, pp.258—270; Chitoshi Yanaga, *Japan Since Perry*, pp.414—427 and 462—466. New York: McGraw-Hill Book Co., Inc., 1949.

=太平洋を越えて来た移民= Paul Hibbert Clyde, *op.cit.*, pp.462—475; Payson J.Treat, *op.cit*, pp.271—296; Carey McWilliams, *Prejudice—Japanese-Americans: Symbol of Racial Intolerance*. Boston: Little, Brown and Co., 1944; Chitoshi Yanaga, *op.cit.*, pp.428—446; Bradforth Smith, *Americans from Japan*.

Philadelphia and New York: J.B. Lippincott Co., 1948.

=満洲事変= Paul Hibbert Clyde, *op.cit.*, pp.572—596; Paul E.Eckel, The Far East since 1500. pp.510—543. New York:Harcourt, Brace and Co., 1947; G.Nye Steiger, *op.cit.*, pp.856—867; Henry L.Stimson, *The Far Eastern Crisis*. New York and London: Harper and Brothers, 1936. Westerl W.Willonghby, *The Sino-Japanese Controversy and the League of Nations*. Baltimore: The Johns Hopkins Press, 1935.

=1937 年以後の日支紛争= Paul Hibbert Clyde, *op.cit.*, pp.641—675; Paul E.Eckel, *op.cit.*, pp.519—543; Harold S.Quigley, *Far Eastern War*, 1937—1941. Boston: World Peace Foundation, 1942. G.Nye Steiger, *op.cit.*, pp.869—884; Chitoshi Yanaga, *op.cit.*, pp.573—588.

=日本と第次世界大戦= Paul Hibbert Clyde, *op.cit.*, pp.676—695; Paul E.Eckel, *op.cit.*, pp.658—683; Edwin O.Reischauer, *Japan Past and Present*, pp.179—185. *op.cit.* G.Nye Steiger, *op.cit.*, pp.885—892; Chitoshi Yanaga, *op.cit.*, pp.589—623.

=占領下の日本= Paul Hibbert Clyde, *op.cit.*, pp.732—742; Paul E.Eckel, *op.cit.*, pp.718—725; Edwin O. Reischaner, *Japan, Past and Present*, pp. 186—192. *op.cit.*, Edwin O.Reischaner, *The United States and Japan*, pp.30—52. *op.cit.*, Chitoshi Yanaga, *op.cit.*, pp.625—658.

13. Hart, 1905, p.371; Johnston, 1907, p.335; Montgomery, 1877, p.380.
14. Hart, 1905, p.359.
15. Ashley 1913, p.489.
16. Larned, 1903, p.457. この条約は 1854 年の三月三十一日に日米間に結ばれた。英国やロシヤやオランダはその後に別に日本と条約を結成した。
(Payson J. Treat, *The Far East*. New York and London: Harper and Brothers Publishers, 1935, pp. 203—204).

17. Treat, *Ibid.*, p. 17.
18. Beard, 1925, p. 447.
19. Hart, *Essentials of American History*, 1919, p. 371;
Montgomery, 1897, p. 380;
Thompson, 1922, p. 327.
20. Payson J. Treat, *Diplomatic Relations between United States and Japan.* Baltimore: The John Hopkins Press, 1917, p. 17.
21. Riegel, 1949, p. 341.
22. Chitoshi Yanaga, *Japan Since Perry.* New York: McGraw-Hill Book Co., Inc., 1949, p. 20.
23. Fite, 1926, p. 327.
24. Adams, 1922, p. 320; Hart, *Essentials in American History*, 1919, p. 371; Hart, *New American History*, 1930, p. 378.
25. Carman 1949, p. 281; Riegel, 1949, p. 342.
26. Southworth, 1948, p. 680.
27. Treat, *Ibid.* p. 53.
28. Riegel 1949, p. 342.
29. Mace, 1925, p. 349.
30. Latane, 1 925, p. 536; Latane, 1938, p. 685; Carman, 1938, p. 607; Carman, 1949, p. 607.
31. Tyler Dennett は天皇が自ら助けを求められた記録はなく，日本政府が講和について申し出た事をはっきりさせている。
(*Roosevelt and the Russo-Japanese War.* Garden City, New York: Doubleday, Page and Co., 1925, p. 175)

32. Todd, 1950, p. 608.

33. Paul Hibbert Clyde, *The Far East*. New York: Prentice-Hall, Inc., 1948, p. p. 333.

34. *Ibid.*, p. 335.

35. Riegel, 1949, p. 534.

36. Adams, 1935, p. 499; Adams, 1949, p. 499.

37. Clyde, *op. cit.*, p. 390.

38. Harlow, 1947, pp. 557—558.

39. Clyde, *op. cit*, pp. 416—423.

40. Adams, 1935, p. 535; Adams, 1949, p. 535.

41. Elson, 1926, p. 895.

42. Muzzey, *History of the American People*, 1929, p. 555.

43. Elson, 1938, p. 895; Muzzey, *History of the American People*, 1938, p. 555; Muzzey, *History of our Country*, 1937, p. 577; Hughes, 1933, p. 416.

44. Wertenbaker, 1931, p. 596.

45. Faulkner, *America; its History and People*, 1947, p. 836.

46. "Immigrants by Country: 1820—1945, *Historical Statistics of the United States*, 1789—1945. Washington, D. C., 1949, p. 35.

47. Canfield, *The United States in the Making*, 1948, p. 609;
Dumond, 1948, p. 600; Harlow, 1947, p. 555;
Wirth, *The Deveiopment of America*, 1948, pp. 602—3; Wirth, *United States History*, 1949, p. 482.

48. Barker, 1949, p. 662; Carfield, *The United States in the Making*, 1948, p. 609; Elson, 1949, p. 896;

Hughes, 1946, p. 416; Muzzey, 1950, p. 431; Southworth, 1948, p. 851.

49. Harlow, 1937, p. 705; Harlow, 1947, p. 683.

50. Henry L. Stimson, *The Far Easten Crisis*. New York and London: Harper and Brothers Publishers, 1936, pp. 187—188.

51. Dumond, 1948, p. 755; Gavian, 1945, pp. 591—592; Riegel, 1949, p. 771.

52. Clyde, *op. cit.*, p. 589.

53. Clyde, *op. cit.*, pp. 681—682.

54. Southworth, 1948, p. 901.

55. Hamm, 1947, p. 712; West, 1948, p. 688.

56. Guitteau, 1946, p. 828.

57. Harlow, 1947, p. 711.

58. Harlow, 1947, p. 290.

59. Clyde, *op. cit.*, pp. 257—260, 266—267.

60. Carman, 1938, p. 602; Carman, 1949, p. 602.

61. Faulkner, *The America Way of Life*, 1941, p. 581.

62. Wirth, *United States History*, 1949, p. 482.

63. Harlow, 1947, p. 552.

64. Clyde, *op. cit.*, pp. 307—8.

65. Harlow, 1947, p. 552.

66. Harlow, 1947, p. 555. 1906 年から 1907 年にかけて. ルーズヴェルト大統領は風説にのみもとづけられた日本の侵略的意図についての報告を度々うけた。その一つは 1907 年の七月に参謀長から来たものでロシヤにいる引退し

たアメリカの軍人の手紙によると．その軍人が酔つた日本の外交官と食事をした処．後者は色々と日本の野心的志望について話しその内にカリフォルニヤも日本は自国の植民地としたいのだと云ったというのである。(Henry F. Pringle, *Theodore Roosevelt a Biography*. New York; Harcourt, Brace & Co., 1931, p. 401)

67. Harlow, 1947, pp. 556—557.

68. Harlow, 1947, p. 558.

69. Harlow, 1947, p. 558. 日英協定を終へる事によつて．合衆国及びカナダの将来の戦争に於ての日英協力の疑いを消す事も出来た。(Clyde, *op. cit.*, p. 450)

70. Harlow, 1947, p. 559.

71. Harlow, 1947, p. 596.

72. Muzzey, *History of the American People*, 1929, p. 554.

73. Elson, 1949, p. 896.;
Ashley, 1924, p. 609.

74. Guitteau, 1924, p. 589.

75. Elson, 1937, p. 896; Guitteau, 1942, p. 589; Muzzey, *History of the American People*, 1938, p. 554; Wertenbaker, 1931, p. 596.

76. Elson, 1949, p. 896; Harlow, 1947, p. 555.

77. Harlow, 1947, p. 560.

78. Harlow, 1947, p. 560.

79. Treat, *op. cit.*, pp. 291—293.

80. West, 1948, pp. 722—723.

81. Harlow, 1947, p. 561.

82. Faulkner, *The American Way of Life* 1941, p. 588.
83. Harlow, 1947, pp. 561—562.
84. Hart, 1905, p. 371; Beard, 1925, p. 448; Hart, *Essentials in American History*, 1919, p. 371; Beard, 1937, p. 545; Wirth, 1936, p. 601; Barker, 1949, p. 264; Barker, 1949, p. 264; Bining, 1950, p. 261; Dumond, 1948, p. 434; Hamm, 1947, between pp. 312 and 313 (colored); Harlow, 1947, p. 287; Todd, 1950, p. 608; Wirth, *The Development of America*, 1948, p. 601.
85. Riegel, 1947, p. 341.
86. Southworth, 1948, p. 681.
87. Wirth, *United States History*, 1949, p. 482.
88. Harlow, 1937, p. 553; Harlow, 1947, p. 553; Wirth, *United States History*, 1949, p. 481.
89. Mace, 1925, pp. 352—353.
90. Fish, 1925, between pp. 532 and 533.
91. Hulbert, 1923, p. 567.
92. Mace, 1925, p. 369.
93. Harlow, 1937, p. 701.
94. Carman, 1938, p. 651.
95. Hamm, *A Unit History of the United States*, 1932, p. 820.
96. *Ibid.* p. 823.
97. Muzzey, *A History of our Country*, 1936, p. 775.
98. Carman, 1949, p. 651.

99. Southworth, 1948, p. 882.

100. Latane, 1938, p. 596.

101. Barker, 1937, p. 748; Barker, 1949, p. 748.

102. Harlow, 1947, p. 683.

103. Southworth, 1948.

104. Gavian, 1945; Hamm, 1947, p. 709.

105. Gavian, 1945, p. 593.

106. Harlow, 1947, p. 612.

107. Binning, 1950, p. 623; Faulkner, *America; its History and People*, 1947, p. 742; Faulkner, *History of the American Way*, 1950, p. 639;
Gavian, 1945, p. 596; Hamm, 1947, p. 777; Harlow, 1947, p. 560; Hughes, 1946, pp. 366—367; Muzzey, 1950, p. 590; Riegel, 1949, p. 779; Southworth, 1948, p. 902; Wirth, *United States History*, 1949, p. 541.

108. Faulkner, *History of the American Way*, 1950, p. 607.

109. Todd, 1950, p. 764.

110. Barker, 1949, p. 943.

111. Bining, 1950, p. 630—631; Canfield, 1948, p. 875; Dumond, 1948, p. 780; Faulkner, *History of the American Way*, 1950, p. 673; Gavian, 1945, pp. 616—617; Guittean, 1946, p. 827; Hamm, 1947, pp. 781 and 785; Muzzey, 1950, p. 596; Southworth, 1948, pp. 905—907 and 916—917; Todd, 1950, pp. 771 and 787; West, 1948, Between pp. 694—695; Wirth, *United States History*, 1949, p. 542, 563, and 567; Yarborough, 1943, p. 563.

112. Hamm, 1947, p. 785.

113. Todd, 1950, p. 789.

114. Bining, 1950, p. 642.

115. Canfield, 1948, p. 877; Faulkner, *America; its History and People*, 1947, p. 755; Guittean, 1946, p. 828; Hamm, 1947, p. 785; Harlow, 1947, p. 712; Hughes, 1946, p. 369; Muzzey, 1950, p. 601; Southworth, 1948, p. 919.

116. Adams, 1949, p. 594 E; Barker, 1949, p. 951; Bining, 1950, p. 628; Dumond, 1948, p. 782; Dumond, 1948, p. 778; Faulkner, *America; its History and People*, 1947, pp. 744 and 754; Faulkner, *History of the American Way*, 1950, p. 607; Gavian, 1945, p. 629; Hamm, 1947, p. 783; Muzzey, 1950, p. 594, Riegel, 1949, pp. 785 and 795; Todd, 1650, p. 769; West, 1948, p. 693; Wirth, *U. S. History*, 1949, p. 558.

教科書一覽

1895—1913

Adams, Charles K. and Trent, William P., *A History of the United States.* Boston: Allyn and Bacon. 1903. Pp. xxiii+590.

Ashley, Roscoe Lewis, *American History.* New York: The MacMillan Co.. 1913. Pp. xxxv+557+xlvii.

Channing, Edward, *A Students' History of the United States.* New York: The Macmillan Co., 1898. Pp. xiii+615.

Davidson, W. M., *A History of the United States.* Chicago: Scott, Foresman and Co., 1903. Pp. xxiv+548.

Fiske, John, *A History of the United States.* Boston: Houghton Mifflin and Co., 1907. Pp. iv+535.

Forman, S. E., *A History of the United States.* New York: The Century Co., 1910.

Hart, Albert Bushnell, *Essentials in American History.* New York: American Book Co., 1905. Pp. 583+xliii.

James, James A., and Sanford, Albert H., *American History*. New York: C. Scribner's Sons, 1909. Pp. xvii+565.

Johnston, Alexander, *High School History of the United States*. New York: Henry Holt and Co., 1907. Pp. xvii+612.

Larned, Josephus N., *History of the United States for Secondary School*. Boston: Houghton, Mifflin and Co., 1903. Pp. xxx, xvii maps+623.

Lee, S. P., *Advanced School History of the United States*. Richmond, Va.: B. F. Johnson Publishing Co., 1895. Pp. 618.

McLaughlin, Andrew C., *A History of the American Nation*. New York: D. Appleton and Co., 1911. Pp. xvi+608.

Montgomery, D. H., *The Student's American History*. Boston: Ginn and Co., 1897. Pp. 523+lv.

Muzzey, David S., *American History*. Boston: Ginn and Co., 1911. Pp. x+662.

West, William M., *American History and Government*. Boston: Allyn and Bacon, 1913. Pp. xiii+801.

Woodburn, James A. and Moran, Thomas F., *American History and Government*. New York: Longmans, Green and Co., 1906. Pp. xvii+478+lxxxvii.

1914—1930

Adams, Charles K. and Trent, William P., *History of the United States*. Boston: Allyn and Bacon, 1922. Pp. xxiv+572, 50.

Ashley, Roscoe L., *American History*. New York: The Macmillan Co., 1924. Pp. xxxv+625 liii.

Beard, Charles A. and Beard, Mary, *History of the United States*. New York: Macmillan Co., 1925. Pp. xiv+669.

Bourne, Henry E. and Benton, Elbort J., *American History*. Boston: D.C. Heath and Co., Pp. x+674+xlvi.

Channing, Edward, *Students' History of the United States*. New York: The Macmillan Co., 1926. Pp. xxxi+628+xxix.

Elson, Henry W., *History of the United States of America*. New York: The Macmillan Co., 1926. Pp. xxv+996+lxvi.

Fish, Carl R., *History of America*. New York: American Book Co., Pp. 570+liv.

Fite, Emerson D., *History of the United States*. New York: Henry Holt and Co., 1926. Pp. x+598+xxxiv.

Forman, S. E., *Advanced American History*. New York: The Century Co., 1924. Pp. xi+609+lii.

Guitteau, William B., *The History of the United States. A Textbook for Secondary Schools*. Boston: Houghton Mifflin Co., 1924. Pp. ix+688+xxxviii.

Hart, Albert B., *Essentials in American History*. New York: American Book Co., 1919. Pp. 600+xlviii.

Hart, Albert B., *New American History*. New York: American Book Co., 1930. Pp. vi+666+liv.

Hulbert, Archer B., *United States History*. Garden City, New York: Doubleday, Page and Co., 1923. Pp. xx+656.

James, James A. and Sanford, Albert H., *American History*. New York: Charles Scribner's Sons, 1923 Pp. xvii+626.

Latane, John H., *A History of the United States*. Boston: Allyn and Bacon, 1918. Pp. xiii+589+28.

Mace, William H., *American History*. Chicago: Rand McNally and Co., 1925. Pp. xiv+648+lxxxv.

Mclaughlin, Andrew C., *A History of the American Nation*. New York: D. Appleton and Co., 1919. Pp. xvi+586+xliii.

Manion, Clarence, *American History*. Boston: Allyn and Bacon, 1926. Pp. xiv+479+52.

Montgomery, David H., *The Student's American History*. Boston: Ginn and Co., 1916. Pp. xii+634+lvi.

Muzzey, David S., *American History*. Boston: Ginn and Co., 1923. Pp. x+539+xlviii.

Muzzey, David S., *History of the American People*. Boston: Ginn and Co., 1929. Pp. iv+732+xlv.

Thompson, Waddy A., *History of the People of the United States*. Boston: D. C. Heath and Co., Publishers, 1920. Pp. xlviii+530+lvx.

Thompson, Charles M., *History of the United States, Political, Industrial and Social*. Chicago: Benjamin H. Sanborn and Co., 1922. Pp. xxiii+584.

West, Willis M., *History of the American People*. Boston: Allyn and Bacon, 1918. Pp. xvi+729+44.

1931—1944

Adams, James T. and Vannest, Charles G., *The Record of America*. New York: Charles Scribner's Sons, 1935. Pp. xxiv+941.

Barker, Eugene C., Dodd, William E. and Commager, Henry S., *Our Nation's Development*. New York: Row, Peterson and Co., 1937. Pp. vi+788+xlviii.

Beard, Charles and Beard, Mary, *The Making of American Civilization*. New York: The Macmillan Co., 1937. Pp. xvi+932+xliii.

Canfield, Leon H., Wilder, Howard B. and others, *The United States in the Making*. Boston: Houghton, Mifflin Co., 1937. Pp. vii+842+xxvii.

Carman, Harry J., Kimmel, William G. and Walker, Mabel G., *Hsitory Currents in Changing America*. Chicago: The John C. Winston Co., 1938. Pp. ix+854.

Elson, Henry W., *History of the United States of America*. New York: The Macmillan Co., 1937. Pp. xxv+1027+lxvi.

Faulkner, Harold U. and Kepner, Tyler, *America: Its History and People*. New York: Harper and Brothers Publishers, 1934. Pp. xiii+850.

Faulkner, Harold U., *The American Way of Life*. New York: Harper and Brothers Publishers, 1947. Pp. xvii+949.

Fite, Emerson D., *History of the United States*. New York: Henry Holt and Co., 1935. Pp. 623+xl.

Forman, S. E., *Advanced American History*. New York: The Century Co., 1931. Pp. xii+675+liv.

Guitteau, William B., *The History of the United States*. Boston: Houghton, Mifflin and Co., 1933. Pp. viii+737+xlvi.

Hamm, William A., *The American People: Their History and Their Problems*. Boston: D. C. Heath and Co., 1938. Pp. xx+1054+lvi.

Hamm, William A., Bourne, Henry E. and Benton, Elbert J., *A Unit History of the United States*. Boston: D. C. Heath and Co., 1932. Pp. x+845+liv.

Harlow, Ralph Volney, *Story of America*. New York: Henry Holt and Co., 1937. Pp. xiv+812+xliii.

Hughes, Ray O., *The Making of Our United States*. Boston: Allyn and Bacon, 1933. Pp. xviii+607+lx.

Jernegan, Marcus W., Carlson, Harry E. and Ross, A. Clayton, *Growth of the American People*. New York: Longmans Green and Co., 1934. Pp. xvi+804+lvii.

Latane, John H., *The History of the American People*. Boston: Allyn and Bacon, 1938. Pp. xvii+788+57.

Lawson, F. Melvyn and Lawson, Verna K., *Our America; Today and Yesterday*. New York: D. C. Heath and Co., 1938. Pp. xii+864.

Muzzey, David S., *An American History*. Boston: Ginn and Co., 1933. Pp. ix+568+xlviii.

Muzzey, David S., *History of the American People*. Boston: Ginn and Co., 1938. Pp. viii+762+xlvi.

Muzzey, David S., *A History of Our Country*. Boston: Ginn and Co., 1937. Pp. xii+856+lvii.

Wertenbaker, Thomas J. and Smith, Donald E., *The United States of America, A History*. New York: Charles Scribner's Sons, 1931. Pp. xii+712.

West, Willis M. and West, R., *The American People. A New History for High Schools*. Boston: Allyn and Bacon, 1934. Pp. xxii+693+69.

Wirth, Fremont, P., *The Development of America*. Boston: American Book Co., 1936. Pp. x+772+lxiii.

Yarborough, William H., Bruner, Clarence V. and Hancox, Herbert F., *History of the United States for High School*. Chicago: Laidlaw Bros., 1943. Pp. 895.

1945—1950

Adams, James T. and Vannest, Charles G., *The Record of America*. New York: Charles Scribner's Sons, 1949. Pp. xi+980.

Baker, Eugene C. and Commager, Henry S., *Our Nation*. Evanston, 111.: Row, Peterson and Co., 1949. Pp. 9741+viii.

Bining, Arthur C., Martin, Asa E. and Wolf, *This Our Nation; From Colony to World Leader*. New York: Newson and Co., 1950. Pp. xxii+762.

Canfield, Leon H. and Wilder, Howard B., *The Making of Modern America*. Boston: Houghton Mifflin. Co., 1950. Pp. xvi+781+lxxix.

Canfield, Leon H. and Wilder, Howard B., *The United States in the Making*. Boston: Houghton Mifflin Co., 1948. Pp. vii+895+xxviii.

Carman, Harry J., Kimmel, William G. and Walker, Mabel G., *Historic Currents in Changing America* Chicago: The John C. Winston Co. 1949. Pp. ix+862.

Dumond, Dwight L., Dale, Edward E. and Wesley, Edgar B., *History of the United States*. Boston: D. C. Heath and Co., 1948. Pp. xvi+847.

Elson, Henry W., *History of the United States of America*. New York: The Macmillan Co., 1949. Pp. xxiv+1074+lxvi.

Faulkner, Harold U. and Kepner, Tyler, *America: Its History and People*. New York: Harper and Brothers Publishers, 1947. Pp. xvii+949.

Faulkner, Harold U. and Kepner, Tyler, *History of the American Way*. New York: Harper and Brothers Publishers, 1950. Pp. xvii+745.

Gavian, Ruth Wood and Hamm, William A., *The American Story, A History of the United States*. Boston: D. C. Heath and Co., 1945. Pp. vii+664.

Guitteau, William B., *The History of the United States, A Textbook for Secondary Schools*. Boston: Houghton, Mifflin and Co., 1946. Pp. 834+xxii.

Hamm, William A., *From Colony to World Power, A History of the United States*. Boston: D. C. Heath and Co., 1947. Pp. vii+854.

Harlow, Ralph V., *Story of America*. New York: Henry Holt and Co., 1947. Pp. xxiii+769+xlvi.

Hughes, R. O., *The Making of Our United States*. Boston: Allyn and Bacon, 1946. Pp. x+607+lxii.

Muzzey, David S., *A History of Our Country*. Boston: Ginn and Co., 1950. Pp. x+640+xxxviii.

Riegel, Robert E. and Haugh, Helen, *United States of America; A History*. New York: Charles Scribner's Sons, 1949. Pp. viii+852.

Southworth, John Van Duyn, *Our Own United States*. New York: Iroquois Publishing Co., 1948. Pp. xvi+1005.

Todd, Lewis P. and Curti, Merle, *America's History*. New York: Harcourt, Brace and Co., 1950. Pp. xiv+

866.
West, Willis M. and West, Ruth, *The American People*. Boston: Allyn and Bacon, 1948. Pp. xiv+735+61.
Wirth, Fremont, P., *The Development of America*. Boston: American Book Co., 1948. Pp. 812+lxviii.
Wirth, Fremont P., *United States History*. New York, etc.: American Book Co., 1949. Pp. ix+735+lii.